

Markoff の公式の誤差解析

IX-3

梶野和郎 (愛知工大・電子)

1. まえがき Newton 補間公式を微分して得られる Markoff の公式は数値微分公式として有用な事がある。spline 補間などのように端点における微係数が必要なときにこの公式を適用しうる。そのときの打ち切り誤差を知るには Markoff の公式の誤差についての知識を必要とする。ここでは Markoff の公式の誤差について述べる。

2. Newton 補間公式 Newton の補間公式は

$$f(x) = f[x_0] + (x-x_0)f[x_0, x_1] + \dots + (x-x_0)(x-x_1)\dots(x-x_{m-1})f[x_0, x_1, \dots, x_m] + (x-x_0)(x-x_1)\dots(x-x_m)f[x_0, x_1, \dots, x_m, x] \quad (2.1)$$

で与えられる。ここで右辺の最後の項は剰余項である。この形では扱にくいので最後の項に積分剰余項を持つ Taylor 展開式

$$f(x) = \sum_{i=0}^m \frac{(x-x_0)^i}{i!} f^{(i)}(x_0) + \int_{x_0}^{x_m} f^{(m+1)}(y) \frac{(x-y)_+^m}{m!} dy \quad (2.2)$$

を代入すると式(2.1) 右辺最後の項は

$$\int_{x_0}^{x_m} f^{(m+1)}(y) \frac{(x-x_0)\dots(x-x_m)}{m!} g_{m+1}[x_0, x_1, \dots, x_m, x; y] dy \quad (2.3)$$

と書き改められる。ここで

$$g_{m+1}(x; y) = (x-y)_+^m = \begin{cases} (x-y)^m & : x \geq y \\ 0 & : x < y \end{cases} \quad (2.4)$$

である。これを若干変形すると Newton 補間公式は

$$\begin{cases} f(x) = \sum_{i=0}^m (x-x_0)(x-x_1)\dots(x-x_{i-1})f[x_0, x_1, \dots, x_i] + \int_{x_0}^{x_m} f^{(m+1)}(y) \hat{G}_m(x; y) dy \\ \hat{G}_m(x; y) = -\frac{1}{m!} \sum_{i=0}^m (x-x_0)(x-x_1)\dots(x-x_{i-1}) g_{m+1}[x_0, x_1, \dots, x_i; y] \end{cases} \quad (2.5)$$

となる。次に等間隔分点に対する Newton 補間公式を得るために式(2.5) で $x = x_0 + h\lambda$, $y = x_0 + ht$ ($h = x_{i+1} - x_i$) とおき

$$f[x_0, x_1, \dots, x_i] = \frac{1}{h^i i!} \Delta^i f(x_0), \quad g_{m+1}[0, 1, \dots, i; t] = \frac{1}{i!} \sum_{j=0}^i (-1)^{i-j} \binom{i}{j} (j-t)_+^m \quad (2.6)$$

を使うと、等間隔分点に対する Newton 補間公式

$$f(x_0 + h\lambda) = \sum_{i=0}^m \frac{\lambda(\lambda-1)\dots(\lambda-i+1)}{i!} \Delta^i f(x_0) + h^{m+1} \int_0^1 f^{(m+1)}(x_0 + ht) G_m(\lambda; t) dt \quad (2.7)$$

$$G_m(\lambda; t) = -\frac{1}{m!} \sum_{i=0}^m \frac{\lambda(\lambda-1)\dots(\lambda-i+1)}{i!} \sum_{j=0}^i (-1)^{i-j} \binom{i}{j} (j-t)_+^m \quad (2.8)$$

を得ることを示す。

3. Markoff の公式 式(2.7) を λ で ν 回微分し $\lambda=0$ とおくと Markoff の公

式を得ることに出来る。

$$\Delta(\Delta-1)\dots(\Delta-i+1) = \sum_{r=0}^i S_i^{(v)} \Delta^r \tag{3.1}$$

と仮くと ($S_i^{(v)}$ はオ一種の Stirling 数)

$$\frac{d^v}{d\Delta^v} \{ \Delta(\Delta-1)\dots(\Delta-i+1) \} = \sum_{r=v}^m S_i^{(r)} \frac{r!}{(r-v)!} \Delta^{r-v} \tag{3.2}$$

である。これを使うと式(2.7)から Markoff の公式

$$\left\{ \begin{aligned} h^v f^{(v)}(x_0) &= \sum_{i=0}^m \frac{v!}{i!} S_i^{(v)} \Delta^i f(x_0) + h^{m+1} \int_0^m f^{(m+1)}(x_0+ht) G_m^{(v,0)}(0;t) dt \\ G_m^{(v,0)}(0;t) &= -\frac{v!}{m!} \sum_{j=0}^m (j-t)_+^m \sum_{i=0}^m (-1)^{i+j} \binom{i}{j} \frac{S_i^{(v)}}{i!} \end{aligned} \right. \tag{3.3}$$

$$\tag{3.4}$$

が得られる。式(3.4) は打切りべき関数 $(j-t)_+^m$ の線型結合による表現のため、数値的安定性が悪く有用ではないのでこれを B-spline の線型結合の形に書き直す。

1次正規化した B-spline を

$$N_{j,k}(x) = (x_j - x_{j-k}) \delta_k [x_{j-k}, x_{j-k+1}, \dots, x_j; x] \tag{3.5}$$

と定義する。

$$N_{j,m+1}(t) = (x_j - x_{j-m}) \sum_{r=m+1}^j \frac{(x_r - t)_+^m}{(x_r - x_{j-m}) \dots (x_r - x_{r-1})(x_r - x_{r+1}) \dots (x_r - x_j)} \tag{3.6}$$

において $x_j = j$ とすると、

$$N_{j,m+1}(t) = \frac{1}{m!} \sum_{r=0}^{m+1} (-1)^r \binom{m+1}{r} (j-t)_+^m \tag{3.7}$$

となる。この式から

$$\sum_{j=1}^m A_j N_{j,m+1}(t) = \frac{1}{m!} \sum_{j=1}^m (j-t)_+^m \sum_{r=j}^m (-1)^{r-j} \binom{m+1}{r-j} A_r \tag{3.8}$$

を得ることに出来る。式(3.8) 右辺と式(3.4) の右辺を比較すると、

$$G_m^{(v,0)}(0;t) = \sum_{j=1}^m A_j^{(v)} N_{j,m+1}(t) \tag{3.9}$$

における係数 $A_j^{(v)}$ を $A_m^{(v)}, A_{m-1}^{(v)}, \dots, A_1^{(v)}$ の順に求めることに出来る。例として

$A_j^{(v)} : m=5$

$v \setminus j$	1	2	3	4	5
1	$\frac{1}{5}$	$-\frac{1}{20}$	$\frac{1}{30}$	$-\frac{1}{20}$	$\frac{1}{5}$
2	$\frac{5}{6}$	$-\frac{1}{12}$	0	$\frac{1}{12}$	$-\frac{5}{6}$
3	$\frac{7}{4}$	$\frac{1}{4}$	$-\frac{1}{4}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{7}{4}$
4	2	1	0	-1	-2
5	1	1	1	1	1

$B_j : m=5$

j	1	2	3	4	5
	$\frac{1}{720}$	$\frac{29}{360}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{331}{360}$	$\frac{719}{720}$

$m=5$ のときの $A_j^{(v)}$ を左表に示す。

多くの m に対して

対してこのように表を作ることに出来る。又

$B_j = \int_0^m N_{j,m+1}(t) dt$ も数表の形にしておくことに出来る。例として $m=5$ のときの B_j を上表に示す。

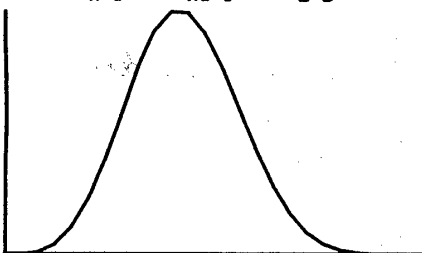
又、 $m=5 : v=1, 5$ に対する $G_m^{(v,0)}(0;t)$ の形状

を左図に示す。

4. 必ずしも多くの m に対して A_j, B_j を数表にしておくこと、近似式に

Markoff の公式を適用したときの打切り誤差を評価することに出来る。

KERNEL FUNCTION OF ERRORS OF MARKOFF'S FORMULA
H=5 NU=1 L=5



KERNEL FUNCTION OF ERRORS OF MARKOFF'S FORMULA
H=5 NU=5 L=5

